

## 「超医療 『気』の流れが病を治す」(下)

患部を純金の棒でさするなどして「気」の流れを正し、身体器官の機能を回復させる「ごしんじょう療法」。東京都渋谷区の貴峰道本部には連日、全国から多数の患者がさまざまな病気治療に訪れる。

治療にあたるのは、この療法を生み出した貴田晞照氏（50）と療法士ら。約一時間で治療費は一万円。

若い親の負担を考慮し、乳幼児の治療費は無料だ。また、「治療を受けていないと効果が実感できない」（貴田氏）として、ごしんじょうの購入のみの申し込みは断っている。

痛みがとれ、外科、内科、婦人科、皮膚科、眼科、脳神経外科などの多くの病を改善させているが、興味深いのは、花粉症やアトピーといった「現代病」にも非常に高い治療効果をあげていること。

貴田氏は「正しく気を流すことによって、体内にたまった過剰な電磁気エネルギーを取り除き、免疫の暴走をくい止める」と説明。悪いエネルギーは、手のひらと足の裏から放出されるという。

### 患者として訪れる医師も少なくない。

医学博士の福岡明氏もそのひとり。「『気』という情報がごしんじょうを伝わって体内に入り、手の指から別のエネルギーがスーッと抜ける感じがわかる。結果、痛みがとれます」と治療の感想を話す。日本代替・相補・伝統医療連合会議理事でもある福岡氏は、「代替医療」としても注目。

「現代の西洋医学を医療制度の中心に据えている国は、医療費が高騰して国の財政を圧迫している。自然治癒能力を高める代替医療を求める動きは世界的なうねり」とし、「西洋医学ではほとんど無力のウイルス性の疾患、アレルギーなどにも、ごしんじょう治療は効果をあげている」と評価する。

科学的な研究解明に乗り出そうとする科学者もいる。脳研究の第一人者で、理化学研究所脳科学総合研究センターの松本元グループディレクターだ。なぜ、この療法があらゆる病を改善しているのか。すでに松本氏は仮説をたてている。

松本氏によれば、気（情報）が身体に流れることは人間の生存には必須で、外環境と身体を区別する皮膚の角質上皮細胞層を刺激し、気の流れの滞りを取り除くことは、あらゆる身体器官の働きを根底から整えることだという。また、皮膚を刺激する純金の棒に関しては、金の金属的特性が極性の不ぞろいを正し、上皮細胞層を活性化している——とも。

松本氏は続ける。

「何が気の流れを滞らせるのか、気の流れの実態が何なのかなどの詳細な研究解明は、今後の課題です」

「病気という言葉が、病の本質を表しています。気の流れが異常だから病気になるんです」と貴田氏。電話で病気相談をする患者には、「手ですすめるだけでも気は流れますから、まず自分の手ですすってください」と励ます。

「病気が治る、痛みがとれるというのが、病気治療の最大の目的で、それがすべてなんです」。

福岡氏もそう断言している。（久保田正子）